



2022年3月期第1四半期決算説明資料

株式会社QDレーザ
2021年8月

Mission

半導体レーザーの力で、
「できない」を「できる」に変える。

Contents

01 2022年3月期第1四半期業績ハイライト

02 半導体レーザーデバイス

03 レーザ網膜投影

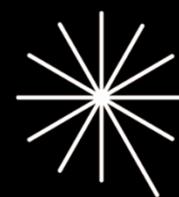
04 更に見込まれるアップサイド

05 ESGの取組

当社は、かつて実現は不可能と言われた、
光通信用量子ドットレーザー (=Quantum Dot LASER)
の量産化に世界で初めて成功しました。

当社のレーザー技術を用いて、
情報処理能力の飛躍的向上を実現し、
視覚障害者支援、眼疾患予防、視覚拡張など、
人類の可能性を拡張する挑戦を続けます。

01



QD LASER

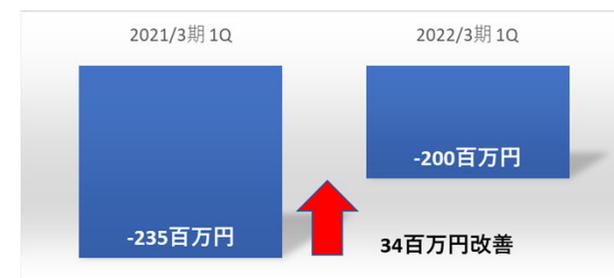
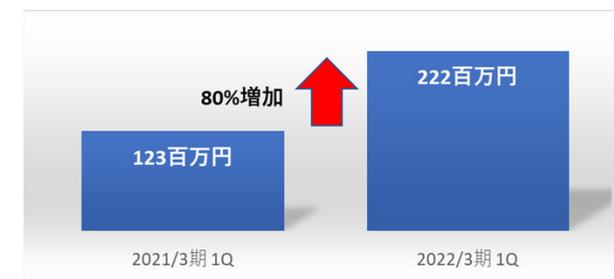
2022年3月期
第1四半期業績ハイライト

業績ハイライト

➤ **売上高は前年同期比80%の増加**
レーザーデバイス(LD)事業で精密加工用DFBレーザー、バイオ検査装置用小型可視レーザー、センサ用高出力レーザー及び開発受託の受注が増加し、レーザーアイウェア(LEW)事業においても金融機関向け販売により増加。

➤ **営業損失は前年同期比34百万円の改善**
売上増加にともなう売上総利益の増加と、人件費、開発費を中心とした費用の減少により、営業損失が改善。

➤ **四半期純損失は前年同期比204百万円の改善**
前年同期はLEW事業で固定資産等の減損損失を161百万円計上したが、当期は2百万円にとどまり、四半期純損失が改善。



業績ハイライト

前年同期比で売上高増加、損失改善

売上高は両事業とも増加し前年同期比で+80%、営業損失は前年同期比で34百万円改善となった。

全社業績サマリー

(単位：百万円)	2022/3 第1四半期	2021/3 第1四半期	増減
売上高	222	123	+80% (+99)
営業損失	△200	△235	+34
経常損失	△202	△249	+46
四半期純損失	△206	△410	+204

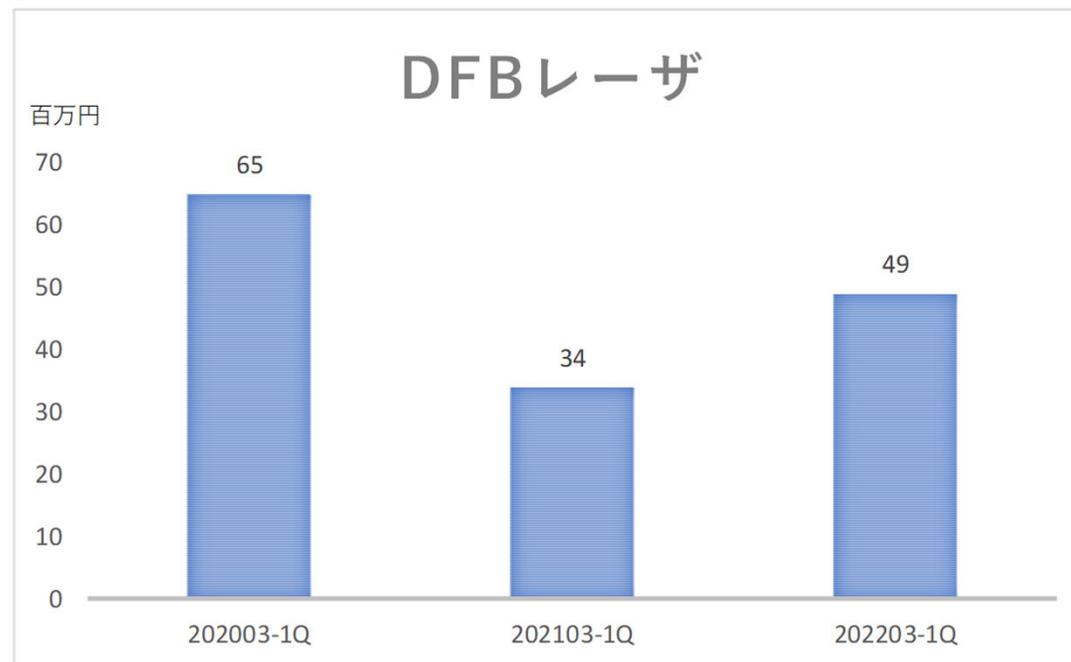
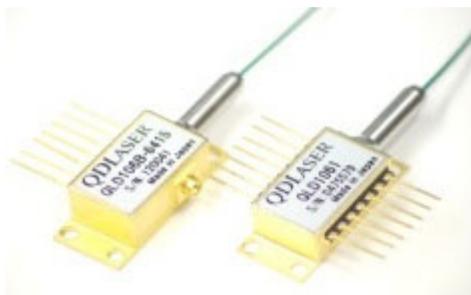
主要製品群別売上サマリー

(単位：百万円)	2022/3 第1四半期	2021/3 第1四半期	前年同期比
DFBレーザ	49	34	+44%
小型可視レーザ	32	20	+60%
高出力レーザ	56	39	+44%
量子ドットレーザ	12	19	-37%
開発受託	55	0	-
その他	0	2	-100%
LD事業計	206	117	+76%
LEW事業計	16	6	+167%
合計	222	123	+80%

精密加工用DFBレーザ^{*1}：第1四半期売上高

2022/3期第1四半期売上高は前年同期比44%増加となる49百万円となった。

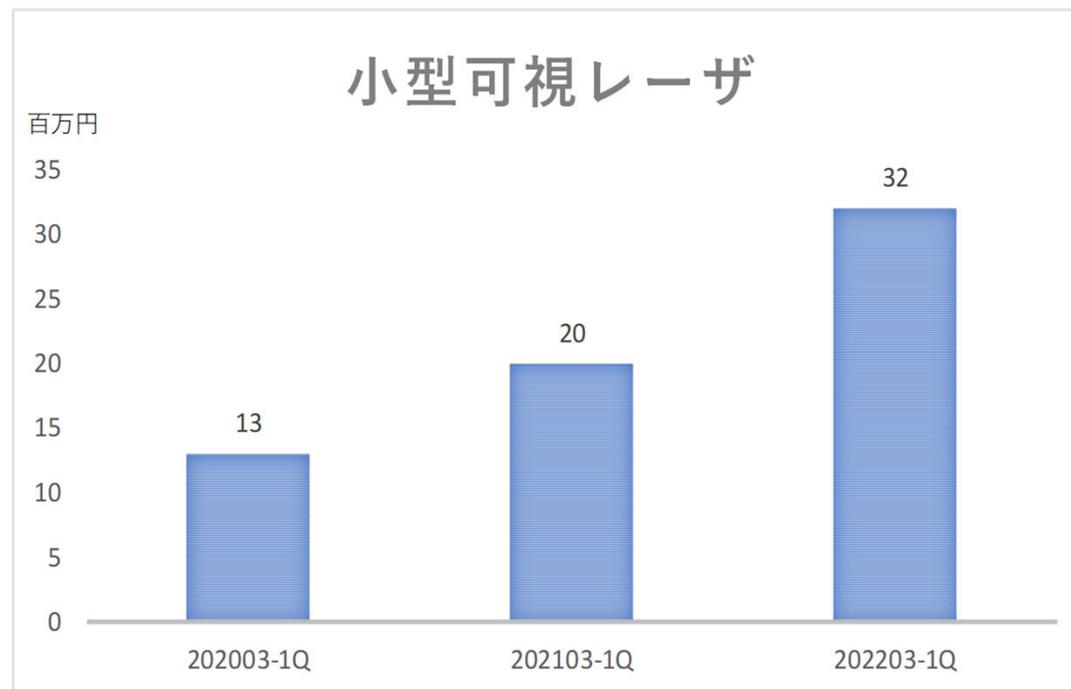
- ・イスラエル顧客向け加工用レーザは前年度とほぼ同数継続受注。
- ・欧州での半導体検査装置用や計測用光源の受注増加。
- ・中国でセンサ用レーザの受注増加。
- ・上記の結果、今期第1四半期売上高は前年同期比44%増加となる49百万円となった。



バイオ検査装置用小型可視レーザー：第1四半期売上高

2022/3期第1四半期売上高は前年同期比60%増加となる32百万円となった。

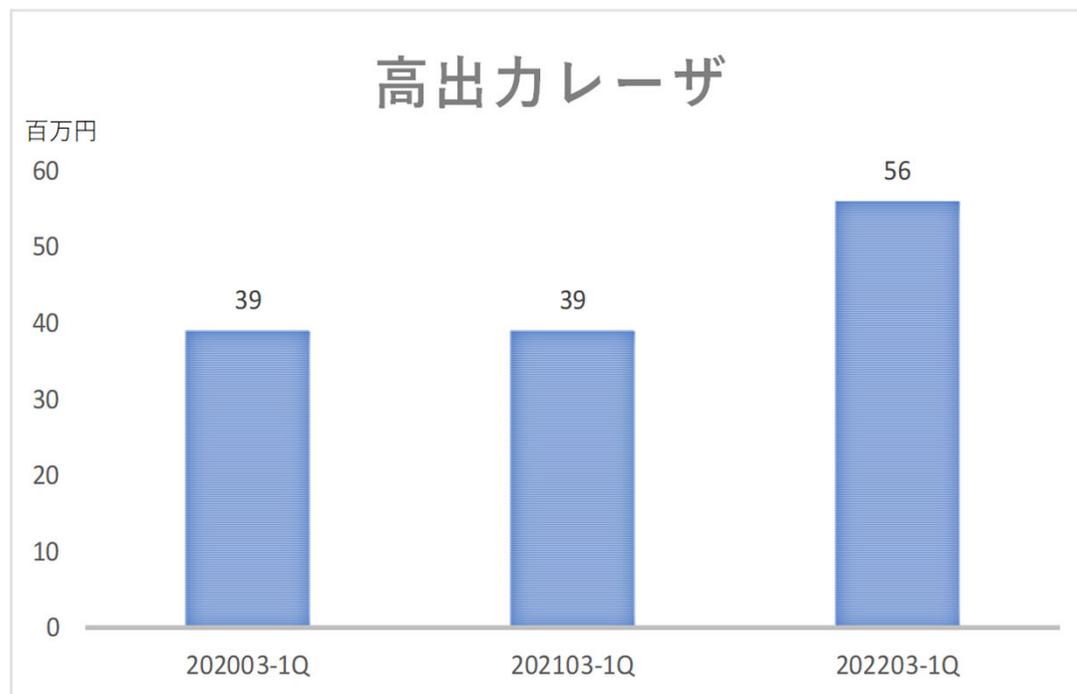
- ・中国のバイオメディカル装置メーカー（本社北米）の新規アプリケーションの量産が開始され受注増加。
- ・上記の結果、今期第1四半期売上高は前年同期比60%増加となる32百万円となった。



センサ用高出力レーザ：第1四半期売上高

2022/3期第1四半期売上高は前年同期比44%増加となる56百万円となった。

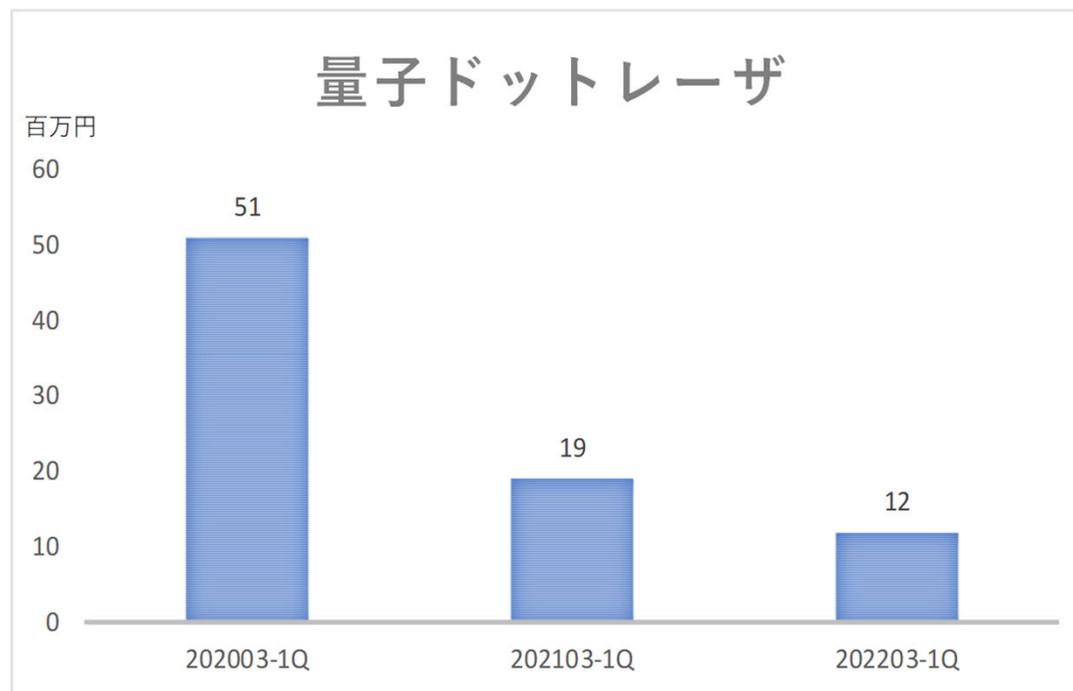
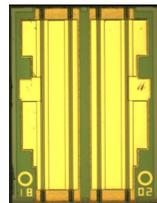
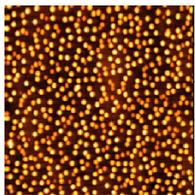
- ・ 中国のセンサ・プロジェクタ用光源の受注が増加。
- ・ 半導体工場用光源の受注が増加。
- ・ 新規認定顧客が4社。
- ・ 上記の結果、今期第1四半期売上高は前年同期比44%増加となる56百万円となった。



通信用量子ドットレーザ^{*1}：第1四半期売上高

2022/3期第1四半期売上高は前年同期比37%減少となる12百万円となった。

- ・ LiDAR用開発案件2件、光コネクタ・チップ間通信開発案件5件は順調に進行中。
- ・ LiDAR用開発受注は継続。
- ・ 光コネクタ・チップ間通信開発案件の発注時期ずれにより前年同期よりも受注減となったが案件は継続。
- ・ 上記の結果、今期第1四半期売上高は前年同期比37%減少となる12百万円となった。



開発受託：第1四半期売上高

2022/3期第1四半期売上高は55百万円となった。

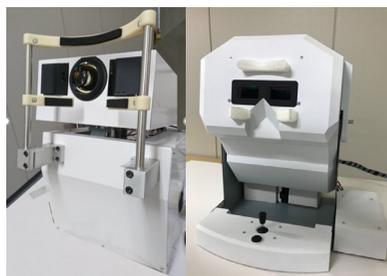
・レーザ網膜投影技術を活用した検眼機の開発を進め、医療・眼鏡・大学病院関係顧客に

◆レーザ走査型眼底撮影装置試作機 ※1

◆屈折力測定装置試作機 ※2

を納品する等新領域への販売を拡大。

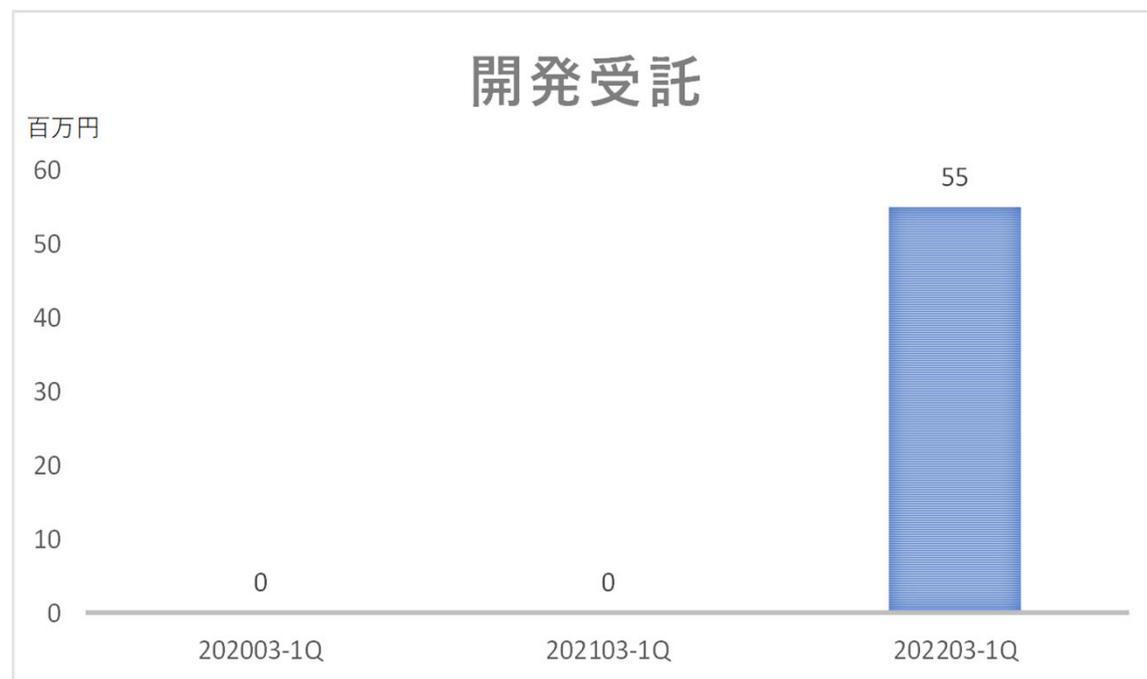
・上記の結果、今期第1四半期売上高は55百万円となった。



語句説明

※1 レーザ走査型眼底撮影装置試作機とは、眼底の撮影機であり、低コスト・小型化・容易な操作性を実現する装置の試作機です。

※2 屈折力測定装置試作機とは、目の屈折力を自覚的、他覚的に自分で検査できる装置の試作機です。



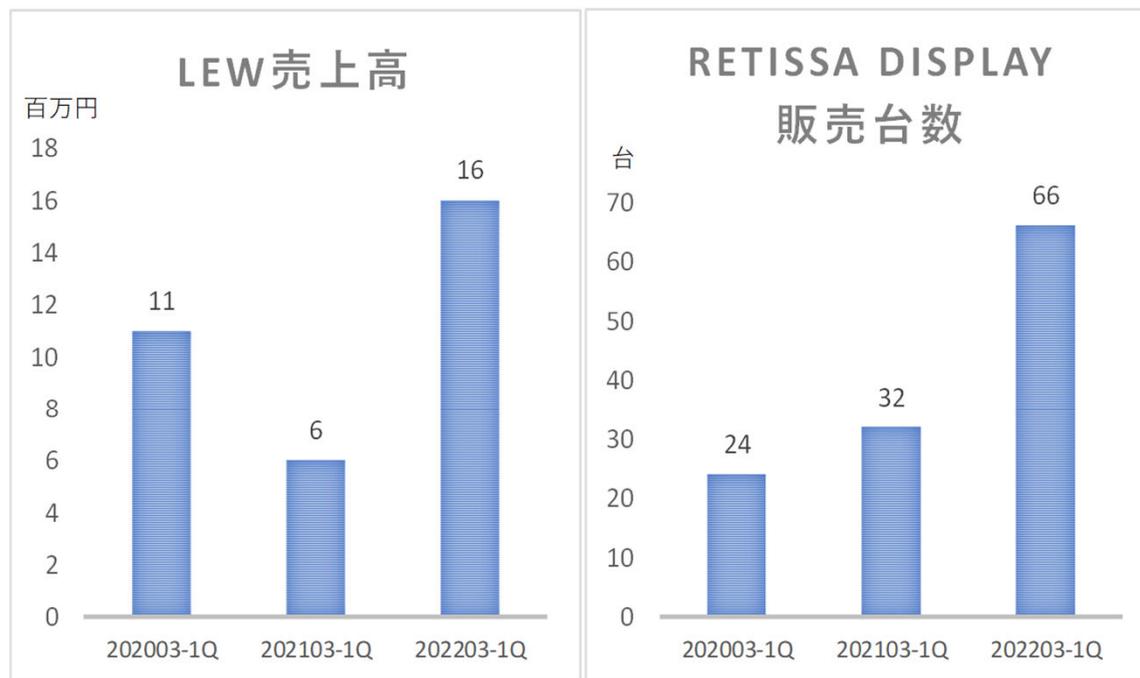
レーザアイウェア(LEW)：第1四半期売上高

2022/3期第1四半期売上高は前年同期比167%増加となる16百万円となった。

- ・金融機関49支店向けの販売が全体の販売を牽引。

- ・販売協力代理店向けの販売やイベント向けの販売も順調であったことに加え、評価向けアクセサリカメラの販売もあり、BtoB分野での販売機会を確実に販売実績に結実。

- ・上記の結果、今期第1四半期売上高は前年同期比167%増加となる16百万円となった。



四半期予想対比と通期業績予想に対する進捗

2022/3期第1四半期の予想に対して売上高は増加したが、販管費の増加があり損失増加。

通期業績予想

(単位：百万円)	2022/3 通期予想	2021/3 通期実績	前年比
売上高	1,260	895	+41% (+ 365)
営業損失	△533	△654	+121
経常損失	△505	△707	+202
当期純損失	△508	△879	+370

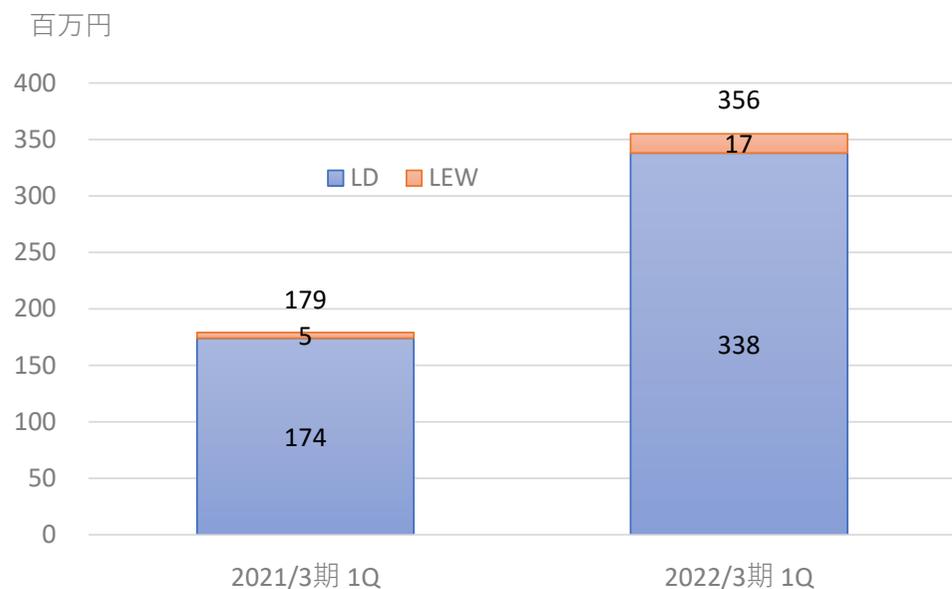
第1四半期予想対比と通期予想に対する進捗

(単位：百万円)	2022/3 第1四半期実績	2022/3 第1四半期予想	予想比	2022/3 通期予想	進捗率
売上高	222	206	+ 8% (+ 16)	1,260	18%
営業損失	△200	△194	△6	△533	38%
経常損失	△202	△192	△9	△505	40%
当期(四半期) 純損失	△206	△193	△12	△508	41%

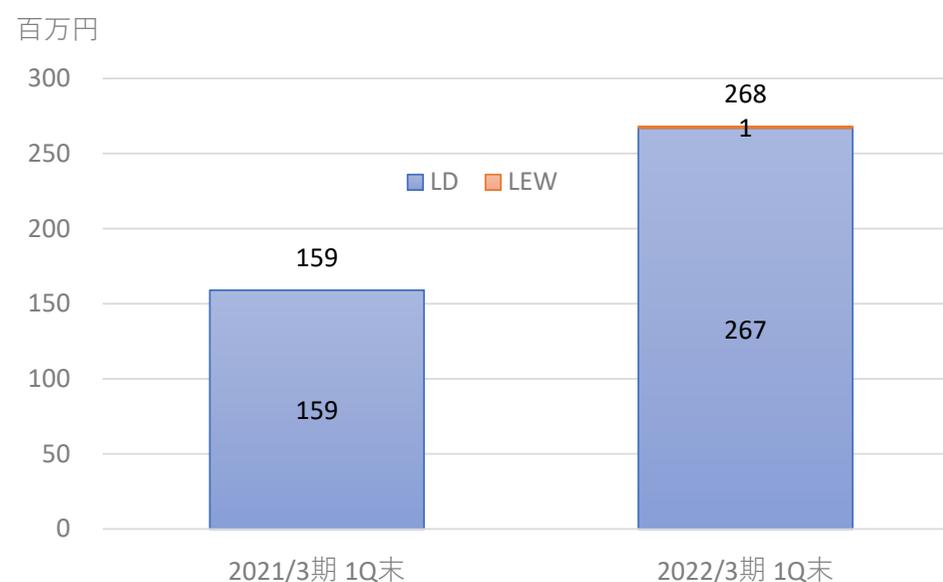
受注状況

2022/3期第1四半期受注額は前年同期比99%増となる356百万円、第1四半期末時点受注残高は前年同期比69%増となる268百万円となった。

受注額

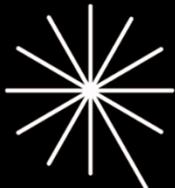


受注残高



2021/3末時点受注残高135百万円 + 2022/3期第1四半期受注額356百万円の合計で491百万円となり、当期予想売上高1,260百万円の39%を受注済。

02

 QD LASER

半導体レーザデバイス

世界的なレーザ市場拡大による底堅い収益基盤と高い成長ポテンシャル

当社の主要レーザデバイス製品

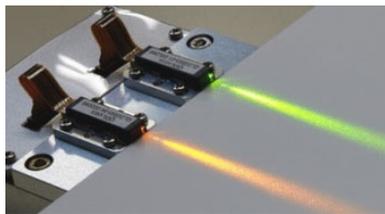
小型可視レーザ

高出力レーザ

DFBレーザ

量子ドットレーザ

製品画像



用途

- バイオセンサー、蛍光顕微鏡など
- 特にフローサイトメーター用

- マシンビジョン、センサ、水準器、短距離LiDAR、3D計測、パーティカルカウンタ

- 精密加工用ファイバレーザの種光
- 半導体検査装置用
- 航空LiDAR等、ガスセンシング等の計測用光源用

- シリコンフォトニクス用途
- 光コネクタ・チップ間通信
- セキュリティカメラ、産業用ドローン、自動運転用LiDAR

特性

- 超小型・低消費電力・安定性・短パルス発生・高速変調・単色性等
- 世界初の電流注入型緑・黄緑・橙半導体レーザ

- 高出力ファブリペローレーザ
- アプリケーションに応じた製品・ソリューションを提供
- 各種波長への対応。少量・カスタム生産へ対応

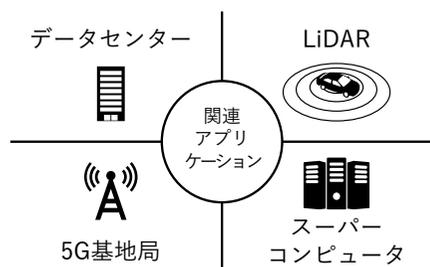
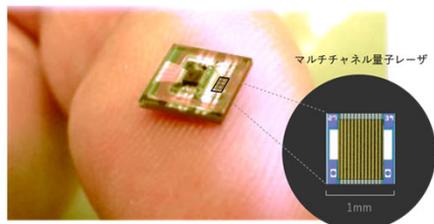
- 波長の緻密な制御、連続動作・ナノ秒・ピコ秒の安定動作
- 既存の固体レーザと比べて、ビーム品質の高さ・小型軽量・電気-光変換効率の高さ・長寿命等の特性を持つ
- 顧客の様々な要望に対応する豊富な製品ラインナップ

- 半導体レーザの活性層（発光部）に量子ドット構造を採用
- 既存の半導体レーザ対比、温度安定性、高温耐性、低雑音性に優れる

当社コア技術によるレーザデバイスの進化

シリコン回路の進化

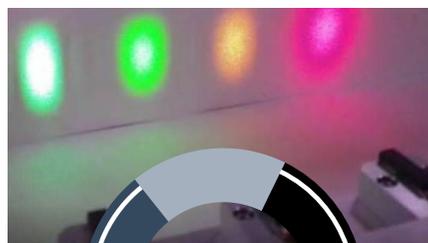
- シリコン電子・光回路は100°C以上で高温動作する量子ドットレーザにより現実化
- 写真は量子ドットレーザを搭載した100Gb/sトランシーバシリコンチップ



- シリコンフォトニクス用チップ
累計販売台数：14,979個*2

センシングの進化

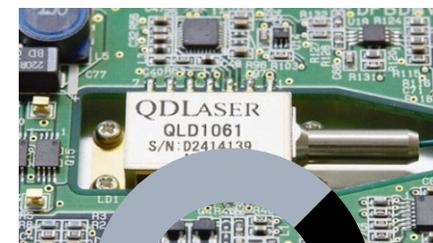
- 様々な波長の独自レーザでフローサイトメータ等のバイオセンシング機器を始め、マシンビジョン、顔認証等への多彩な展開



- フローサイトメータ世界市場
(770億円*1)の82.7%を
占める上位2社に認定サプライヤとして供給
(認定サプライヤは当社以外にも複数社存在)

レーザ加工の進化

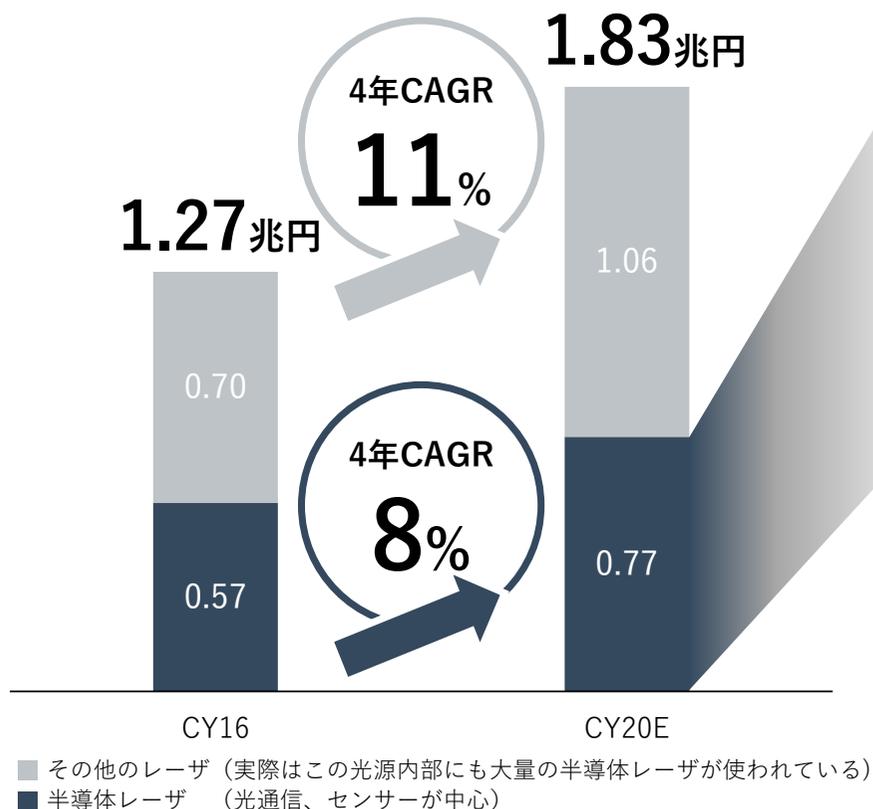
- 超短パルス (10ps)による非加熱での高精細加工を実現
- 次世代スマートフォン電子回路基板加工用に採用



- 極短パルスレーザ世界市場
(466億円*1)の22.4%を占める
世界第二位レーザメーカーに認定サプライヤとして供給
(認定サプライヤは当社以外にも複数社存在)
- 航空LiDARなどにも展開

既存用途*¹のみでも、拡大を続ける半導体レーザー市場 前期は認定数(顧客×品種)は目標値20%増加/年を達成(39⇒47)

既存用途における半導体レーザー市場規模推移*²



■新製品開発によるターゲット市場でのプレゼンス拡大

シリコン回路の進化⇒量子ドットレーザーのカスタマイズ設計、低コスト化

- ・通信 (368億円) : データセンター、5G基地局、スーパーコンピュータ、車載通信
- ・LiDAR (28億円) : ロボティクス、ドローン、セキュリティ、自動運転

レーザー加工の進化⇒DFBレーザーの高効率・高速性の追求

- ・微細加工用DFBレーザー(11億円) : 複合電子回路基板、ガラス、セラミック、半導体
- ・LiDAR用DFBレーザー (3億円) : 航空機、気象・地形観測

センシングの進化⇒高出力化、プラグアンドプレイ化

- ・小型可視レーザー (64億円) : フローサイトメータ、セルソータ、各種顕微鏡
- ・高出力レーザー(339億円) : 電車、自動搬送装置、水準器、パーティクルカウンタ

※数字は2025年の当社アクセス可能市場予測

■認定数、年間20%増加達成のための4つの施策

業界動向・市場分析に基づく**新製品開発**

顧客最終製品の高付加価値化のための**カスタム対応**

市場動向・ニーズの早期把握による**顧客への提案活動**

新製品・技術開発に関する**White Paperの発行**

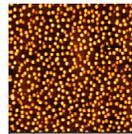
顕在化し始めた、シリコンフォトニクス（電子・光集積回路技術基盤）

量子ドットレーザ技術を活用した、カスタム対応拡大 21-23年度にかけて順次量産化体制を組む

製品化・開発状況

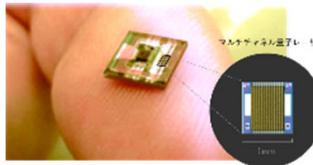
- 2010年
通信用量子ドットレーザを
世界で初めて実用量産化
- 2012年
シリコンフォトニクス用量子ドットレーザの
開発開始
- 2017年
シリコンフォトニクス用量子ドットレーザの
量産体制確立（アイオーコア社に供給）
- 2019年
第一精工（現 I-PEX）が開発した
「超薄型コネクタ体型アクティブ
光モジュール（I-PEX EOM）」に
当社製品が搭載
- 2021年5月現在
世界のシリコンフォトニクスベンダー各社と
共同開発を進め、
国内外の大手半導体・通信企業との取引を強化
7社にカスタム対応中
21-23年度にかけて順次量産化へ
光コネクタ・チップ間通信チップ、LiDAR

量子ドット結晶

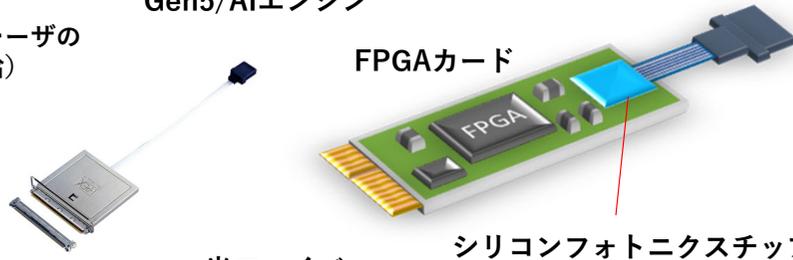


100 nm

量子ドットレーザを搭載した
100Gb/sトランシーバシリコンチップ

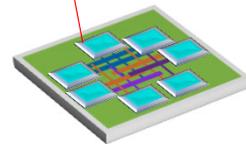
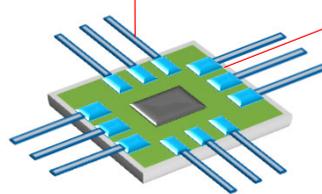


光コネクタ(EOM,COP) : 8K-SHTV/ FA/ PCIe-
Gen5/AIエンジン



光ファイバ

シリコンフォトニクスチップ

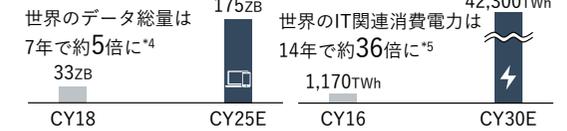


チップ間伝送シリコン
フォトニクスチップ

データ・電力消費量の増加とシリコンフォトニクス



世界のデータ需要増加に伴う消費電力増加が
世界的な課題



量子ドットレーザを基板上に搭載した
シリコンフォトニクスによるムーアの法則の打破、
半導体の抜本的な性能向上*6



高温動作必須の巨大な情報処理アプリケーション

データセンター



80°C

5G基地局



105°C

自動運転/LiDAR



105°C

*1: 富士キメラ総研 (2018) 「Society 5.0 時代の注目電子部品 2019」
 *2: IDC (2020) 「国内データセンターサービス市場予測、2020年~2024年」
 *3: 富士キメラ総研 (2019) 「5 G 通信を実現するコアテクノロジーの将来展望 2020」
 *4: IDC (2018) 「The Digitization of the World From Edge to Core」
 *5: 国立研究開発法人科学技術振興機構低炭素社会戦略センター (2019) 「情報化社会の進展がエネルギー消費に与える影響 (Vol.1)」
 *6: 経済産業省が推進する「超低消費電力型エレクトロニクス実装システム技術開発」(2012-2021) における目標数値 電子情報通信学会 (2015) 「シリコンフォトニクスとエレクトロニクス実装技術」

レーザーデバイス事業 競合優位性/他社参入障壁

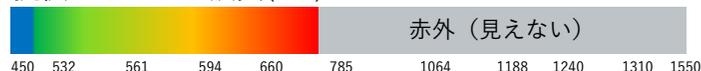
ビジネスモデル：

● 半導体レーザー業界唯一のファブレス体制

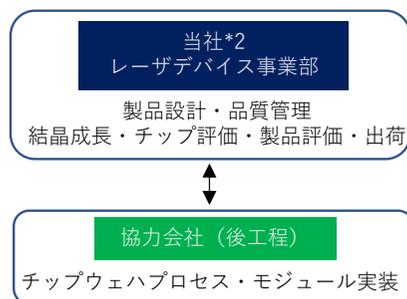
- 数台から数千万台の自在な製造規模
- 平均50%超の高い限界利益率（固定費の変動費化）*1
- 規模と多品種での損益分岐点越え

● 任意のレーザー波長を提供

提供するレーザー波長(nm)



● 新製品・新分野・新事業を起こす 高い自由度



コアコンピタンス：量子ドットレーザー

● 原子レベルの精密結晶成長技術（秘匿技術）

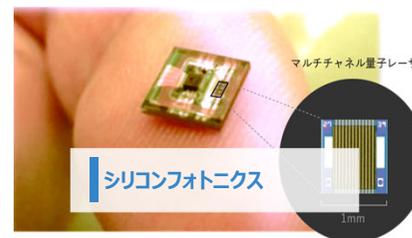
- 0.1秒刻みの精密制御
- 10万通り以上のレシピからエッセンスを抽出
- 20年を超える技術の蓄積により、量子ドットレーザーの量産に唯一成功

● 100°Cを超える過酷な環境、高密度実装状態でも動作

- 光電子集積回路
- 車載デバイス

● 量子ドットが生み出す新領域

- チップ間光通信(シリコンフォトニクス)
- LiDAR(シリコンフォトニクス)
- 量子暗号通信



*1： 2014年3月期から2020年3月期までの平均値

*2： 当社内では、半導体レーザーの最も重要なデバイス設計、結晶成長と完成品の評価のみ実施し、それ以外の工程は提供工場に委託

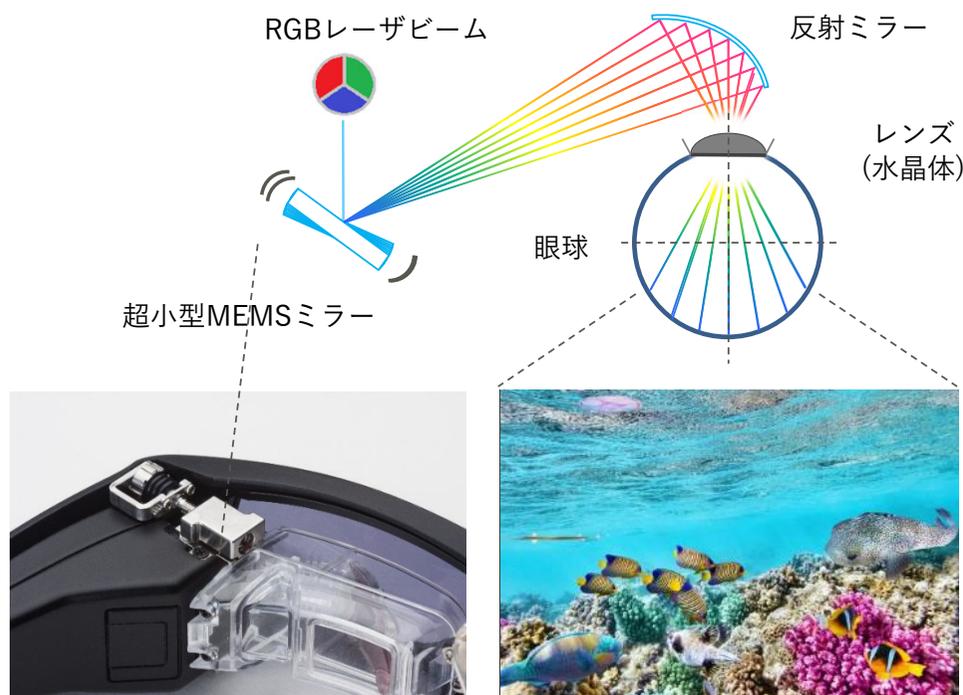
03

 QD LASER

レーザー網膜投影

世界初の網膜投影技術を活用したアイウェア製品化

視覚にイノベーションを起こす独自レーザ技術 VISIRIUM TECHNOLOGY®



網膜に直接映像を投影



角膜、水晶体に頼らない視覚体験

近視、遠視、乱視、屈折異常でも
鮮明な画像認識が可能



フリーフォーカス

網膜上で、肉眼で見ている風景と投影する画像両方に
焦点を合わせて見ることができる
これは他ARグラスにはない特徴



網膜の周辺部でもピントが合う

レーザ網膜投影では網膜の広範囲でピントが合うため
網膜症の患者への適用が期待できる*1

*1: 大手航空会社と筑波技術大学において、網膜症の患者への適用可能性検証のための系統的実証実験を（機内や教室内の環境下で）実施中。個人差あり

RETISSA® シリーズ 製品展開状況

医療機器モデル、販売開始。

民生、医療、両モデル共に販売台数増加



到達視力：0.8

- 屈折力-11D*1(強度近視)から+6D*1(中強度の遠視)の度数の範囲で、眼鏡を使わなくとも0.8の視力が得られる*2

今期開始した販売戦略概要

- 新規フレーム開発： 容易な装着位置合わせと長時間装着安定性を向上
- フレームに接続可能なアクセサリカメラ上市予定： 機能性向上
- ユースケースに基づく企業向け提案： マーケットインの販売戦略
- 海外販売： US、中国、韓国を始め本格的な海外展開を計画・実施



管理医療機器 (特定保守管理医療機器) *3

- 不正乱視によって視力が障害された患者 (既存の眼鏡又はコンタクトレンズを用いても十分な視力が得られない患者) に対し、視力補正をする目的で使用される
- ①遠見視力の補正、②読書速度の向上、③読書視力の向上の特性が期待される

今期開始した販売戦略概要

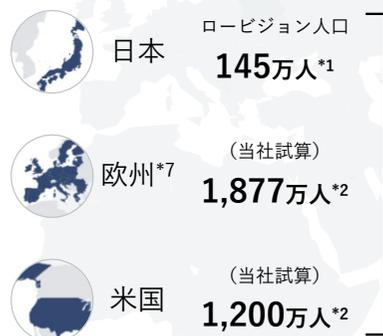
- 販売協業： 参天製薬様、シード様との連携により全国眼科施設での取り扱い
- 日生具/特装具/医療費控除等 購入補助認可： 購入者負担軽減への取り組み

Low vision aid領域 TAM（※前眼部適用のみ：屈折異常、角膜混濁）

日米欧のみでも最大9,000億円の市場 中国含む眼科医療非先進国市場への展開も想定

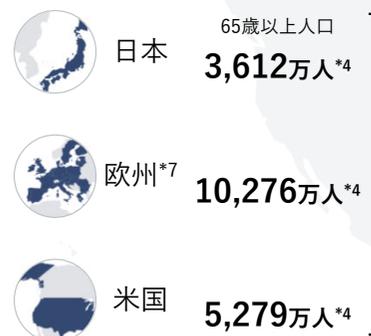
ロービジョン市場

高齢者に係るギャップビジョン市場



推定適用可能割合
(当社試算) ^{*3} × **11%** × 製品単価
(想定) ^{*6} **20万円**

主要先進国計 (当社試算)
7,087億円



推定適用可能割合
(当社試算) ^{*5} × **1%** × 製品単価
(想定) ^{*6} **10万円**

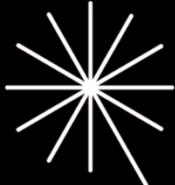
主要先進国計 (当社試算)
1,917億円

最大市場規模 9,000億円

(これら上記の数値は、想定に基づく試算であり、将来のマーケット動向を保証するものではありません。)

^{*1}: 日本眼科医会資料「日本における視覚障がいの社会的コスト」より
^{*2}: WHO資料「Visual Impairment and Blindness 2010」記載のロービジョン人口比率を、現行の人口（欧州：EU統計局「Population on 1 January, 2019」、米国：アメリカ合衆国国勢調査局「Vintage 2019 Population Estimates.」）に乗じて算出
^{*3}: 参天製薬調査より日本における円錐角膜患者数は推定6~12万人、またp.36より円錐角膜と角膜混濁の10万人当たりの出現数がほぼ等しいことから日本における角膜混濁患者数も同程度と仮定。両者の患者数を中間値8万人、計16万人とし、ロービジョン人口145万人で除した割合11.0%を各国に適用、なお、この割合は前眼部疾患に限った割合であり、網膜疾患への対応が可能となれば、推定適用可能割合のさらなる増加が見込まれる
^{*4}: 65歳以上の高齢者の全てが近眼・老眼・遠近両用眼鏡を使用すると仮定し、各国の65歳以上人口（日本：統計局「人口推計 2020年（令和2年）12月報」、欧州：EU統計局「Population on 1 January, 2019 by broad age group and sex」、米国：アメリカ合衆国国勢調査局「Population by Age and Sex: 2019」）を潜在的な高齢者に係るギャップビジョン人口として想定
^{*5}: 特徴が補聴器に類似（高齢者の日用的な使用、ウェアラブル機器、眼鏡店での製品販売等）していることから、補聴器市場を推定適用可能割合試算の際の参考値として使用。日本における2019年の補聴器出荷台数563,257台（日本補聴器工業会「補聴器出荷台数2020年」より）を65歳以上人口で除して算出した補聴器購入割合が1.6%であることを鑑み、推定適用可能割合を1.0%と保守的に想定し、各国に適用
^{*6}: 量産化が進んだ段階での想定される製品単価。普及の想定時期がロービジョン市場と高齢者に係るギャップビジョン市場において異なることや、より高頻度の使用が想定されるロービジョン者については、より耐久性のある高級フレームの販売を想定し、それぞれの市場における製品単価を仮定
^{*7}: EU統計局の2019年1月1日時点のデータを使用しており、内訳にイギリスの人口を含む

04

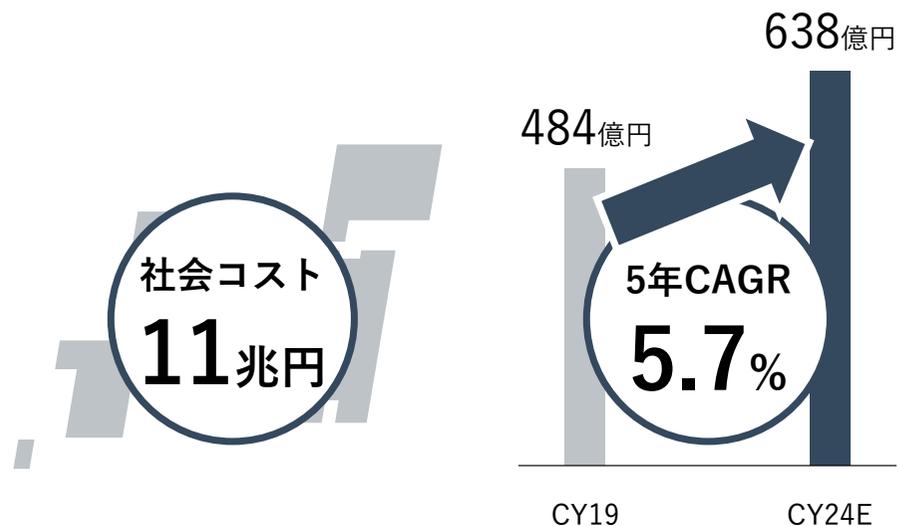
 QD LASER

更に見込まれるアップサイド

成長ポテンシャルが大きい検眼市場

レーザー網膜投影技術を活用し、新しい検眼を。 試作機はすでに完成、提携先と上市にむけて進行中

国内における2030年の視覚障害コスト*1 眼底撮影装置市場規模*2



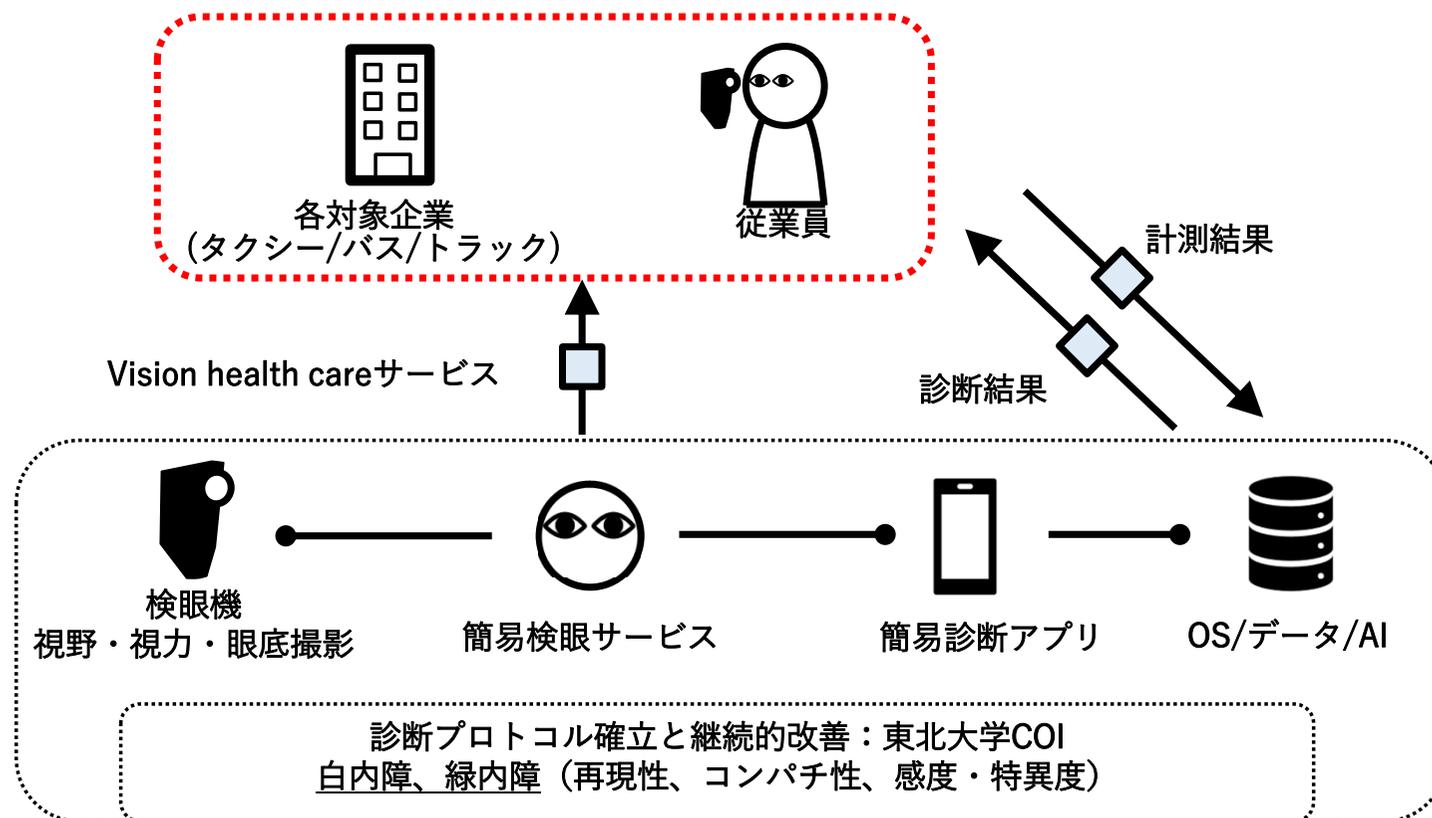
*1: 日本眼科医会資料 (2009) 「日本における視覚障害の社会的コスト」「本邦の視覚障害者の数現況と将来予測」
直接的経済コスト (医療制度支出) と間接的経済コスト (その他の財務費用) を合計した「視覚障害の経済コスト」と、視覚障害をかかえることによる個人の健康年数喪失を算出した「疾病負担コスト」を合計した値
*2: TechNavio (2020) 「Global Ophthalmic Diagnostic Devices MARKET 2020-2024」、為替レートにつき、JPY/USD=110円で計算
*3: 従来の視野計測において代表的な視野計であるGoldmann視野計及びHumphrey視野計のおおよその測定時間を記載

Vision health care データプラットフォーム（構想段階）

まだ**構想段階**なもの、当プロダクトを活用したサービスを開発中。

目が重要な業種（運転など）企業に対して、簡易検眼診断サービスを提供

独自技術により取得した検眼データをAIで判定し、症状がみられたときは運転の停止、眼科への診断を推奨。



- ・ 事故防止
- ・ 雇用維持
- ・ 失明防止

1. スクリーニング
2. 診断支援
3. 完全自動診断

中長期で期待できる成長ポテンシャル

01

各種レーザ技術の研究開発及び
レーザデバイス事業での安定的な収益の確保により、
将来の飛躍的な成長に向けた経営基盤を強化



02

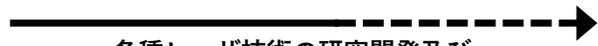
民生/医療用アイウェアの量産/販売体制を確立
短中期的にはレーザアイウェア事業を
成長ドライバーに



+

03

中長期的には、レーザアイウェアに加え、
検眼器やシリコンフォトニクス等での
売上拡大を企図



IPOに伴う
認知度向上

低コスト
量産開始
(予定)

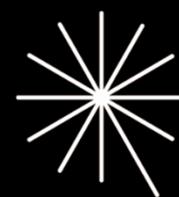
国内外で
更なる
拡販加速を
企図

現在

将来

*1: グラフについてはイメージとして図示

05



QD LASER

ESGの取組

ESG観点に直結する事業展開

Social

2030年の
視覚障がいによる
日本の社会的損失*1
11兆円

全世界の
ロービジョン
人口合計*2
2.5億人

日本の推定
緑内障患者数*3
400万人

- 世界初の網膜投影技術でロービジョンエイドに貢献
- レーザアイウェア普及で高齢者の視覚支援へ貢献
- より安価な検眼器普及で、緑内障等の各種眼疾患早期発見に寄与
- ロービジョン者就労支援

Environment

シリコン
フォトニクス
による半導体の
電力消費量削減率*4
90%

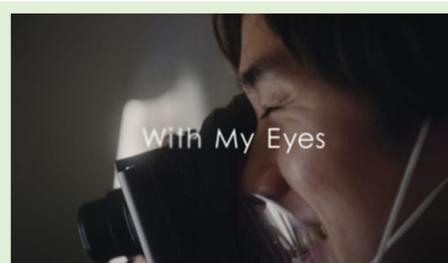
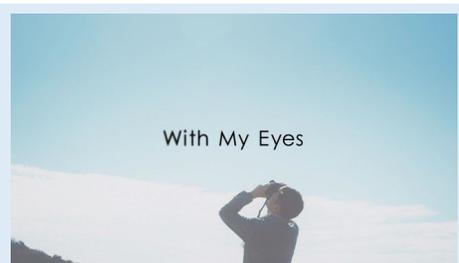
- 量子ドットレーザを搭載したシリコンフォトニクスで半導体性能を抜本的に改善

Governance

*1: 日本眼科医会資料「日本における視覚障害の社会的コスト」「本邦の視覚障害者の数現況と将来予測」
直接的経済コスト(医療制度支出)と間接的経済コスト(その他の財務費用)を合計した「視覚障害の経済コスト」と、視覚障害をかかえることによる個人の健康年数喪失を算出した「疾病負担コスト」を合計した値
*2: WHO「GLOBAL DATA ON VISUAL IMPAIRMENTS 2010」
*3: 参天製薬「アニュアルレポート 2017」
*4: 経済産業省が推進する「超低消費電力型光エレクトロニクス実装システム技術開発」における目標数値、電子情報通信学会「シリコンフォトニクスと光エレクトロニクス実装技術」

プロジェクト With My Eyes

Low vision aid

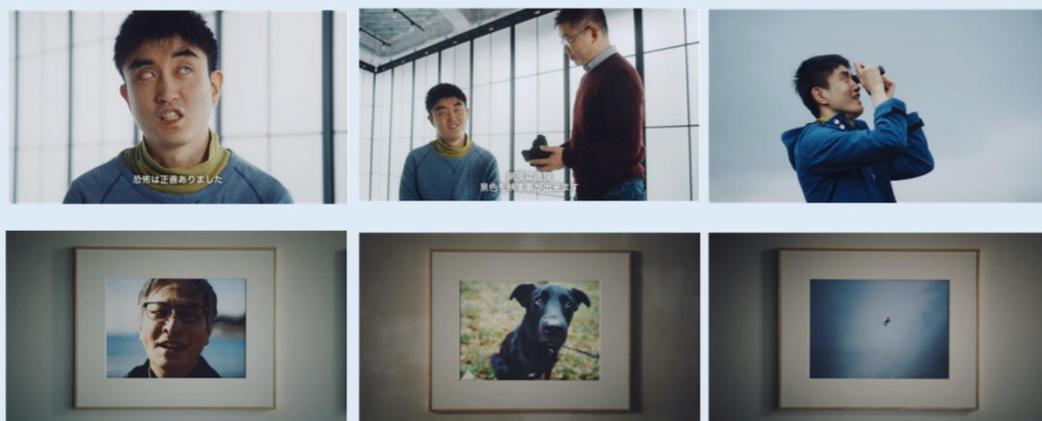


■プロジェクト第1弾：「With My Eyes」ドキュメントムービー

この度、当社の保有するレーザー網膜投影技術を用いたカメラ型デバイス「RETISSA SUPER CAPTURE」により、ロービジョン者が自らの目で写真撮影に挑む企画を実施いたしました。ロービジョン者支援に取り組む中で、当事者たちは必ずしも自身の状況をマイナスだとは捉えておらず、ポジティブに生活を送っているという気づきを得ました。そこで、マイナスをゼロにするのではなく、プラスの価値を生活に提供するというコンセプトのもと、ロービジョン者が自らの目で写真を撮影できる世界の実現を目指し、本企画の実施に至りました。レーザー網膜投影技術を適用できるロービジョン者5名に参加いただき、「RETISSA SUPER CAPTURE」を手に、写真撮影の小旅行を実施。その様子を映像におさめています。

■プロジェクト第2弾 見えなかった世界を、見に行こう。

「With My Eyes」第2弾として、JALグループの株式会社ジェイ・エア協力のもと、ロービジョンのパラアスリート3名が飛行機に搭乗し、当社の保有するレーザー網膜投影技術を用いたカメラ型デバイス「RETISSA SUPER CAPTURE」により、自らの目で上空からの写真撮影会を実施。上空からの景色をレンズ越しに初めて見る感動を映像におさめました。



会社概要

富士通研究所のスピンオフベンチャー ニコン・参天製薬など医療関連企業も出資

会社名 株式会社QDレーザ

設立 2006年4月24日

決算期 3月

代表者 代表取締役社長 菅原 充

従業員数 60名*1 (2021年6月末時点)

所在地 本社：神奈川県川崎市川崎区南渡田町1-1

事業内容

- **レーザデバイス事業**
 - ・通信・加工・センサ用の最先端半導体レーザの製品化
 - ・当社の技術・ノウハウを活用した顧客の新製品の試作品の受託・共同開発
- **レーザアイウェア事業**
 - ・世界初となる、レーザ網膜投影技術を活用した「RETISSA®」を製品化

業許可等

- 第二種医療機器製造販売業
- **医療機器製造業**
- ISO 9001
- EN ISO 13485

*1： 使用人兼務役員1名および派遣社員11名を含む

文部科学大臣表彰
科学技術賞

産学連携功労者表彰
内閣総理大臣賞



代表取締役社長
菅原 充

- 東京大学卒 工学博士
- 1984年 東京大学大学院
物理工学修士課程修了
富士通入社
- 1995年 富士通研究所
光半導体研究部主任研究員
東京大学工学博士
- 2004年 東京大学生産技術研究所
特任教授
- 2005年 富士通研究所ナノテクノロジー
研究センター
センター長代理
- 2006年 当社を創業、代表取締役に就任（現任）

本資料の取扱いに関する注意事項

- 本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」(forward-looking statements)を含みます
- これらは、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります
- それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます
- 今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は、本発表に含まれる「見通し情報」の更新・修正を行う義務を負うものではありません